４つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小手澤の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.584-585
新１年生が活動を始めました、先輩から道具の指導

【定例活動報告】小手澤の森

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

「私の3rd place」

5月第一日曜日の定例活動は、曇りのち雨で午前中いっぱいが勝負となるような空模様でしたが、中学生たちと共に知足の森で作業に入りました。上級生が新一年生に指導する形で2班に分かれて合計4本の木を伐木しました。作業の前に、道具の説明や山の神様への挨拶を行いました。そして尾根へ移動して切る木の確認や受口追口の説明をしました。それぞれの説明を上級生が交代でしていましたが皆さんの個性があり、聞いていて楽しかったです。山から下りてくるころには雨が降り出してしまったので食事を

とって道具の片づけ、その後解散しました。

一方、第三日曜日の定例活動は非常に良い天気で、少し暑いくらいでしたが、中学生の参加は前日までの学校行事で大変だったようで上級生の参加は少なめでした。今回も初参加の新一年生がいたので前回同様、上級生から指導を受けながら午前中で4本の木を間伐しました。かかり木の処理に手間取り、予定していた時間を超えてしまいましたが昼食後には広葉樹の萌芽更新後、もやわけ(間引き)を実施していない箇所で全員が横に広がってもやわけを実施しました。作業後、空から日の光が地面に届くようになり、非常に気持ちよかったです。話しは変わりますが、先日、社内の交流会で職場でもない家庭でもない私の第三の場所について紹介しあう機会がありました。音楽やマラソンなどの発表が行われましたが、私もこの緑のダム北相模での活動を紹介させていただきましたが、改めてこのような都会ではなかなか経験できない非日常の素晴らしい活動ができるこの場所は貴重な場所であることを再認識しました。

家庭と仕事と第三の場所それぞれのバランスをとることが肝要ですが、上手く調整しつつ将来にわたって長くこの活動が続くように、微力ながら関与し続けていきたいと思います。

湯元　啓之（本会、会員）

【定例活動報告】知足の森

私たちは今回初めて森での活動に参加して、森の活動の難しさと楽しさがとてもわかりました。まず木を切ることは危険も伴うので一つ一つの作業がとても大切で丁寧にしなければいけず、最初はとても緊張しました。せっかく切り終えた木も倒す時に他のきに引っかかってしまって倒れなかったりなどと大変で、帰る時には疲れ切ってしまいました。ですが先輩方が一から切り方を教えてくれたり、木を切る上で問題が起きた時その場にある道具を使って自分たちでその問題をどのように解決するか話し合って考えたことがとても楽しかったです。

今回はまだ初めてだったので、なかなか自分から話し合いに参加することはできなかったけれど回を重ねていくごとに自分も解決できるようになりたいです。また、まだ今回は一年生が三人しかいなかったけれどこれから活動に参加する同級生も増えると思うのでよりたくさんの仲間と木を切る楽しさを共有できるのが楽しみになりました。

山田　めぐみ（GTE LAB　中学１女子）

今回は初めての活動でした。午前には、みんなで大きい木を切りました。木の切り方などわからないことがたくさんあったけれど先輩方が教えてくれて木を切ることができました。けれど他の木に引っかかってしまい、たくさん試行錯誤するも、なかなか思いどおりにはいきませんでした。なんとか木を倒すことができて、とても達成感がありました。その後に倒した木の枝をノコギリで切っていきました。この作業はほとんど一年生だけがやり、互いに声をかけ合いながらでき、よかったです。

午後に切った木は細くて切りやすかったのでたくさん切ることができました。切るときに斜面がものすごく急でうまくバランスをとることが難しかったです。帰りに帰りに道に迷うというハプニングがあって少し心配はしましたが、面白かったです。

全体的に木を切るとき、力が足りなくて時間がかかってしまったり切れなかったことがありました。今後、木を切るコツなどを覚えて、力を身につけていきたいです。

吉川　智洋
（GTE LAB　中学１男子）

桜井尚武の森のコラム

「ヤマモモ(*Myrica rubra*)」

図1　ヤマモモ

20210326　汐入公園南千住

図2　ヤマモモの稚樹

20080509　湘南海岸林

図3　ヤマモモの果実

20100705　日大構内藤沢

図4　熟果の落下

20100705　日大構内藤沢

ヤマモモ科の常緑広葉樹で樹高15～20m直径1m位になります。葉は10cm内外の広倒披針形か披針形で革質（図1）、雌雄異株です。関東地方以西から九州、台湾を含む中国、朝鮮半島南部の温暖な地域の山野に分布します。ヤマモモは根に放線菌を共生させて窒素固定をする根粒を作ります。このため、やせ地でも育ち土地を肥沃にする肥料木と期待されて砂防植栽や海岸林造成に使われました。私がかつて通った湘南海岸林にもよくみられました。自然落下した種子からの稚樹が芽生えているのも観察されます、この稚樹の葉は鋸歯が大きく成木の葉と形が違います(図2)。

貧栄養土壌の荒れ地でも生育できると期待されているのですが、実際には山麓の水分条件の良い所が生育適地のようです。この樹種の特長は大きくておいしい果果実を点けることです。古代には皇室への献上品だったという記録があるそうで古くから利用されていたようです。江戸時代には今の徳島県で果実の大きい甘い系統が選抜されて重要な産品になり明治に入って阪神地方などに出荷され温州ミカン、カキ、ウメに 次いで第 4 位の地位を占めていたことがあるといいますが、その後すたれて現在では高知県を含む四国南部地域の特産物として楽しまれているようです。選別された銘品でなくとも、ヤマモモの熟した果実は魅力的です(写真3)。季節の風物として山道で出会ったら味わいたいものです。実際ジャムやゼリーなどにもに加工されて好評です。

藤沢の日本大学構内にあるヤマモモが果実を一面に落とした姿を見ました(図4)。この果実が地面に散らばる景色は見事なもので重力散布種子の分散の様子が明瞭です。都心の霞が関ビルから赤坂へ向かう通りの並木にこのヤマモモが採用されていますが、熟した果実が大量に歩道に落下する時期の足元は大変な状態です。街中の街路樹に使うのにはこのような果実をならせる雌樹の採用は不適当でしょう。

公園や庭園樹にも結構採用されて、夏の強い陽射しを遮ってくれます。果実がなるまでには20年以上かかるとも言われ、環状剥皮をしても10年では着果しないともいいますが、根気強く待ちましょう。

（桜井尚武　本会会員）

【活動報告】 今年も小金井市主催「ウッド×デジタルファブリケーション」を開催

今年も小金井市が東京学芸大学に委託しているこの事業の森林体験（間伐、製材乾燥まで）を本会で担当します。11名の参加者が計３回、知足の森中心に活動します。リピーターや兄弟が去年参加してくれていて、それを知ってエントリーしてくれた生徒さんなど、小金井市にも活動の輪が広がり始めています。

GREEN TECH ENGINEER LABの活動も始まっています

CLTcomboという研究棟での木工活動の開始、ShopBotを使った学校ロッカー内什器の大量生産化、センダンの芽が出てきまして、植え替え、これまで搬出した材の端材を薪ストーブ用にもらったり、いろいろ活動が始まっています。

宮村　連理（本会、副理事長）

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
パタゴニア
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所

緑の募金　一般財団法人 セブン-イレブン 記念財団　SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM　patagonia